

議事概要

会議名	令和6年度 第1回豊橋市上下水道事業経営検討委員会
開催日時	令和6年7月29日(月) 午後3時00分から午後4時20分
開催場所	豊橋市上下水道局 5階 大会議室
委員の出席状況	伊藤友之委員 出席(現地) 齊藤由里恵委員 出席(オンライン) 鈴木由紀子委員 出席(現地) 高橋大輔委員 出席(現地) 加藤智久委員 出席(現地) 藤城ひろみ委員 出席(現地) 諸石光代委員 出席(オンライン)
会議の公開又は非公開	公開(傍聴者なし)

発言者	発言内容
	議題(1) 「上下水道ビジョン2021-2030」の見直しについて
委員 豊橋市	各指標の説明は、どこに記載がされているか。 「上下水道ビジョン2021-2030」の本編に記載がある。
委員 豊橋市	評価レポートを読む際に、手元にビジョンを持たないまま読む可能性もあるため、レポートの中にも指標の説明を記載するなど、工夫をしてはどうか。 参考にさせていただく。
委員 豊橋市	水道の基本方針2において、耐震性貯水槽の記載があるが、市内の設置数はいくつか。 市内に26か所設置されている。
委員 豊橋市	自分の校区にも設置されており、予定があわず訓練に参加できていないが、参加したいと思っている。せっかくなので、毎年とは言わずとも、定期的を開催することを検討してもらいたい。 参考にさせていただく。
委員 豊橋市	全国で7割の自治体が水道管の耐震化計画を策定していると報道で見かけた。豊橋市の状況についてはどうか。 水道管の耐震化の計画を策定している。災害時に拠点となるような重要給水施設へつながる管路については、12年度末までに70パーセントを耐震化する計画である。
委員	施設の老朽化について、水道および下水道それぞれにおいて、施設、管路ではどのような考えで老朽化対策の計画が立てられているか。

発言者	発言内容
豊橋市	下水道の施設については、老朽化対策の対象は電気設備、機械設備が中心であり、設置から15年から20年経過を区切りとして更新の必要性を判断している。
豊橋市	下水道の管きょは約1600kmあり、そのうち重要管路である約400kmを対象に予防保全による老朽化対策を行っている。約15年のサイクルで管路の調査を行い、必要があれば対策工事を行う。
豊橋市	水道施設の更新については、老朽化設備の更新、配水設備の増強、非常用発電機の設置などのメニューごとに重要度や緊急度から優先順位をつけて10年ごとの更新の計画を立てている。基本的には予防保全で更新を行う。
豊橋市	水道の管路について、通常の法定耐用年数が40年であるが、管路によっては40年以上使用できる場合もあることから、豊橋市では管種別に設定した管種別更新基準年数をもとに計画を立てている。
委員	収益的収支において、水道、下水道事業ともに令和4年に急激に損益が減少しているがその原因を教えてください。
豊橋市	物価高騰のうち、特に電気代の上昇が激しく、急激な損益の減少に影響を与えていると考えている。
委員	物価高騰は今後も続くと予想して今後の見通しを立てるのか。またそれにともない料金を改定する可能性があるか。
豊橋市	今後の人口や水需要について予測を行い、事業費等についても見直したうえで、今後の財政状況のシミュレーションによっては、料金改定の必要もありうると考えている。
委員	現時点でのシミュレーションでは、どの時点で経営状況の悪化が見込まれているか。
豊橋市	現時点の試算では令和7年度には水道事業、下水道事業ともに厳しい試算となっている。
	議題（2）上下水道事業に関する国の動向について
委員	ウォーターPPPについては、国交付金の要件化となることが導入検討の最も大きな要因と思われるが、導入可能性調査の結果、どのように導入について判断する想定でいるか。
豊橋市	国交付金の要件では、ウォーターPPPの具体的な手法や施設の範囲は各自治体の判断によるものとされている。導入による効果については、国交付金も含めた効果を試算し、本市にとって理想的な導入の形を模索したいと考えている。
	議題（3）能登半島地震の対応について
委員	過去の地震と比較して断水の復旧が遅かった要因は、耐震化の状況なのか、それとも別に要因があるのか、把握していれば教えてほしい。
豊橋市	被災地へのアクセス手段が少なく、道路の寸断等により工事車両や資材の到達が遅れたことが要因だと把握している。

発言者	発言内容
委員	斜面崩壊が非常に多く発生し管路が流れてしまう箇所が多かったこと、給水人口1人あたりの排水管延長が長かったことが要因だと聞いている。
委員	災害派遣について、長期で派遣されているということだが、派遣費用も含めて支援しているということか。
豊橋市	派遣にかかった費用については、まずは本市で負担するが、後に国や派遣先から補填されるようになっている。
委員	来年以降も派遣を継続するのか。
豊橋市	派遣先からの依頼があれば、延長を検討することになると思う。
議題（4）水道料金・下水道使用料について	
委員	公共下水道事業と地域下水道事業とで使用料の体系が違うのはなぜか。
豊橋市	<p>公共下水道事業は、人口が密集する市街化区域、地域下水道は人口密度の低い市街化調整区域の下水を処理しており、それぞれ独立した処理を行っている。</p> <p>また地域下水道では、農林水産省所管である農業集落排水施設、環境省が所管であるコミュニティプラントがあり、これらは、国の統計等では別事業として扱われ、会計処理もそれぞれで行っている。</p> <p>これらのことから、下水道使用者様には、それぞれの実情に応じた費用負担をいただくという考えのもと、別々の使用料体系となっている。</p>
委員	地域下水道事業の方が、使用料が高いのはなぜか。
豊橋市	地域下水道事業では、公共下水道事業と比較し、同じ量の下水を処理するにも費用が多くなるためである。地域下水道事業は比較的人口の少ない市街化調整区域での下水処理を行っており、スケールメリットが働かないことが要因と考えられる。
委員	公共下水道事業と地域下水道事業では、状況が異なるとのことでしたが、受けるサービスが同じなのであれば、使用料の体系は同じであるべきではないか。
豊橋市	<p>同様のご意見はこれまでもいただいている。人口の減少は地域下水道事業の方が顕著であり、処理費用の差は今後ますます広がることが予想される。そうなれば、使用料の差が広がることとなり、下水道使用者の負担にも大きな差が出てしまう恐れがある。</p> <p>地域下水道事業の中には、公共下水道事業へ接続され、同じ処理を行っている地区もあり、公共下水道事業と地域下水道事業という区分の方法が最適であるか、という議論もある。公共下水道事業と地域下水道事業それぞれの事業特性や経営状況を整理し、下水道事業全体としてどうあるべきか、今後検討していきたいと考えている。</p>